

「日系社会青年ボランティア」

高丸 博文

TAKAMARU Hirofumi

野球で人の役に立ちたい

ボールは蹴るもの。そんな意識が根付くブラジル。しかし中西部のマトグロソ州クイアバにあるグラウンドでは、今日も子どもたちが白球を投げ、バットを振っている。

「じっくりボールを見ろ！」

そう言いながらノックを放っているのは高丸博文さん。この街で野球を教えている日系社会青年ボランティアだ。

少年時代から野球一筋。日本体育大学では、学生な

JICA Volunteer Story

PROFILE

1987年東京都出身。大学卒業後、私立高校の野球部コーチを経て、2012年7月から日系社会青年ボランティア(野球)としてブラジルで活動中。

「野球を通じて人間力を育んでほしい」

サッカー大国ブラジルにも野球少年はいる。中西部のクイアバにある野球チームのコーチになった高丸博文さんは、弱小チームの強化に乗り出した。



から野球部コーチとして選手の指導に当たった。大学のグラウンドは、年2回、JICAボランティアの野球隊員を選考する実技試験に使われていた。キヤッチボールの相手などで応募者と接する機会があった高丸さん。「日本では野球が盛んだが、世界には野球を知らない国もあるのでは?」「野球を通じて自分も人の役に立てることはないか?」。そう考えるようになった。

チームの団結力を高める心の指導

大学卒業後、JICAボランティアに見事合格し、クイアバにあるニッポセントロオエステドブラジル協会に配属となった。この地域には日系人が多いため、日本語の指導や文化イベントの開催、スポーツチームの運営などを行っている協会だ。日系人から広まった野球も16歳以下のチームがあり、約40人が所属している。高丸さんは彼らに野球を教えることになった。

早速、練習を見学すると、その光景は衝撃的だった。キヤッチボールは続かない、バッティングも遠くに飛ばない、練習中にもかかわらず勝手に水を飲みに行ったり、日陰で休んだり…。「自分が楽しければいいと考えているようで、公園で遊んでいるのと同じ。とても野球の練習とは言えませんでした」。

まずは、ボールの握り方やバットの振り方、スライディングの仕方などを、一から徹底的に教えることにした。その際にこだわったのが、常に「考えてプレイングすること。」「ゴロはなぜ低い姿勢で捕らなければならぬのか」など、選手自身に一つ一つの動きを説明させた。「学生コーチとして選手に指導している時、理解してプレーするほど、良い結果が出ると気付いたからです」と、高丸さんは話す。



a.いつもコールド負けの相手に3点差で惜敗した試合後。「何が足りなかったと思う?全員が本気で勝ちたいと思っていなかったからではないか?」
 b.ノックをする高丸さん。「他の選手がエラーした時でもすぐに反応できるように、繰り返し練習しています」
 c.配属先の協会が開催した日本祭りでは、野球に親しんでもらおうとバッティング体験コーナーを設けた
 d.高丸さんと共にスライディングの指導に当たる協会の伊澤祐二さん。「彼の熱心さはチームに刺激を与えています」

こうして練習を重ねること約10カ月。州大会は、3チームによる総当たり戦。1試合目、12対6。2試合目、14対0。これまではほとんど試合に勝てなかった高丸さんのチームが圧勝だった。

個人賞も総なめにした。中でもヴィクター・ヒューゴ・パロスクんの活躍は目覚ましかった。毎日200回以上の素振りをこなし、本番で見事ホームランを放ったのだ。「彼が努力する姿を見てきたので、打った瞬間は感無量でした」と高丸さん。それでも、あえてこう言った。「あんな球、打って当たり前だ。他のチームが相手なら打てないぞ」。

さらに州大会の後、浮かれ気分のチームを引き締めようと、高丸さんは強敵との練習試合を組んだ。案の定、大敗だった。試合後のミーティングで「勝つにはどうすればいい?」と問い掛ける高丸さん。全員が沈黙する中、こう続けた。「まずは全員でグラウンドの整備と掃除をしよう。その中に強いチームに勝つヒントがある」。勝つためには、技術だけでなく、心を鍛える必要がある。ランニングは、みんなでリズムをそろえて走る。練習後、ボールの数が足りなかったら見つかるまで全員で探す。他の選手の練習中に休まない。さまざまなルールを取り入れた。

この日を境にチームは大きく変わった。これまではノックでミスをした選手に「ちゃんとやれよ!」と怒鳴っていたのが、「集中してもう一本いこう!」と声を掛け合うように。「チームが団結することで、野球がますます楽しくなってきました」とキャプテンの河原真二エリックくんは話す。

目標は、全国大会で優勝すること。「選手たちが野球に打ち込める環境をつくり続けられ、いずれ達成できるはずですよ」と高丸さん。チーム一丸となり、今日も練習に励んでいる。



野球をしたことがない地域の子供たちへの巡回指導もしている高丸さん。野球に親しみを持ってもらうのが目的だ(撮影: 渋谷敦志)